

「平成 29 年度 地域と学校の協働活動の充実を図る研修会」事業報告

- 1 事業名 平成 29 年度 地域と学校の協働活動の充実を図る研修会
- 2 期 日 平成 29 年 10 月 26 日 (木)
- 3 参加者 25 名
- 4 日 程

時 程	内 容
13:30	受 付
13:50	開会行事
14:00	研修 1 〈講義〉 中高生と社会人の対話による学びを創出する「三四郎の学校」の挑戦！ 三四郎の学校 事務局長 日賀 優一 氏
14:30	研修 2 〈演習〉 ※途中休息 10 分程度 対話に必要な「聴く」チカラを高める！ワークショップ 三四郎の学校 事務局長 日賀 優一 氏
16:20	振り返り
16:40	閉会行事
16:50	

5 活動の実際

研修 1

(1) 内容

研修 1 は、「三四郎の学校」とは何か、どのような活動を行い、どのような効果があったかについて、様々な事例を紹介しながらの講義がありました。「三四郎の学校」は、みやこ町の公民館等を活用した、中高生と大人が、自分、社会、未来について語り合い、考える地域の学び場であり、この異年齢集団による対話の実現を通して、対話に必要な「聴く」こと（傾聴）の重要性を認識し、実践していくワークショップであるとの説明がありました。



三四郎の学校の説明をする日賀氏



「聴く」(傾聴)の大切さを聞く参加者

(2) 参加者の声（概要）

- 子どもにとっても大人にとっても必要な取組だと思いました。自分の子どもが中・高生になった時、このような学習の場があれば一緒に参加したいです。
- 対話によって子どもがどういった変化をするのか、どういった考えや思いを持つのかよくわかりました。

研修2

(1) 内容

研修2では、研修1での講義を基に「三四郎の学校」の取組（ワークショップ『テーマ：子どもに必要な自由とは？』）を実体験しました。その際、3つのルール（・未来を語る ・人をほめる ・沈黙を歓迎する）を参加者全員で確認し、対話（傾聴）ができる環境づくりを行いました。実際の対話（傾聴）体験を通して、自分のこれまでの対話に対する姿勢を見直したり、対話（傾聴）のよさを体感したりすることができ、子どもの教育活動に関わる際のスキルや意識の向上の一助となりました。



ワークショップの様子



感想（ふりかえり）を発表する参加者

(2) 参加者の声（概要）

- 対話、傾聴というものに対する理解を深めることができましたが、まだまだ自分本位な会話に終始する自分がいることを認めざるをえません。
- 全く知らない方々と同じテーマについて考え、対話することにより、自分と違う考えに気づき、又、考えることができました。今までの研修ではない体験ができました。
- 3つのルール（対話の配慮）がいいなと思いました。このルールを参加者によって変えているというところが勉強になりました。

6 全体をとおして

「会話する相手の話を、対話（傾聴）という文字を頭に浮かべながら努めて、相手の話を穏やかな気持ちのまま聞いていきたいと思います。」「子どもたちとこのような形で話し合いをしてみたいと思いました。」という参加者の感想があり、子どもの教育活動において、対話（傾聴）への実践意欲の向上を図ることができたと思われまます。さらに、「これまで学校教育に携わってきましたが、社会教育の分野でも様々な形で子どもに力をつけられると思いました。今後、連携を深めていきたいと思います。」という感想から「三四郎の学校」の手法やよさを体感したことで、参加者の見方・考え方が広がり、活動の連携・協働のきっかけとなることができたと思われまます。これらの様子から、地域と学校の協働活動をする参加者の資質の向上のために、来年度もこの「三四郎の学校」の手法や内容、効果を発展的に伝えることが大切であると実感しました。

